

# 施策評価シート

評価実施年度：平成30年度

事務事業所管部局長 (幹事部局)	環境生活部長 松本 修吉	電話番号	0852-22-5231
---------------------	--------------	------	--------------

## ①施策の目的等

施策の名称	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあい推進
目的	○自然公園・森林公園や自然学習施設を自然の観察や環境学習の場として活用し、県民の身近な自然とのふれあいを推進します。

## ②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
自然公園等の年間利用者数	目標値		978.0	978.0	978.0	978.0	万人	自然学習施設の年間入場者数	目標値		621.0	621.0	621.0	621.0	千人
	取組目標値		1,292.2	1,292.2	1,292.2	1,292.2			取組目標値						
	実績値	1,292.2	1,218.3	1,220.8					実績値	629.0	615.0	543.0			
	達成率	-	94.3	94.5					達成率	-	99.1	87.5	-		
定性目標	目標値						%	目標値						%	
	取組目標値							取組目標値							
	実績値							実績値							
	達成率	-	-	-	-	-		達成率	-	-	-	-	-		

平成28年度～平成31年度

成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）

- ・自然公園、自然歩道の利用者数は、県内の観光客の動向に連動して、平成25年度をピークに、その後は減少傾向となっている。
- ・H29年度の自然学習施設の利用者は、アクアス本館シロイルカプール改修工事等の影響により前年度の入館者数より減少した。
- ・サヒメルでは、平成28年度は大規模企画展があったため入館者数が多かったが、平成29年度は減少した（入館者数133千人（前年比94%））。
- ・ゴビウスの入館者数122千人（前年比105%）。
- ・アクアスの入館者数は、本館シロイルカプール改修工事のため、シロイルカパフォーマンスを休止した影響等もあり、約288千人（前年比81%）となった。

## ③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点での施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然公園、自然歩道は、パンフレット、県内の見どころを記載したマップを作成し行政機関や公の施設に配布し利用促進に努めている。</li> <li>・大山隠岐隠岐国立公園の国立公園満喫プロジェクト選定を受け、地元と連携し「しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業」に取り組んでいる。</li> <li>・隠岐ユネスコ世界ジオパークの活用推進事業については、平成30年1月にユネスコ世界ジオパークとして再認定を受け、ジオサイトの施設整備・維持修繕を計画的に実施。全小中学校、隠岐高校、隠岐島前高校でジオパーク学習を実施。</li> <li>・サヒメルでは、工夫を凝らした企画展（年4回）など自然に対する理解を深める取組みを実施。</li> <li>・ゴビウスでは、年3回の特別展、団体向けプログラムや年間パスポート所有者限定イベント等、魅力ある施設運営に努め、昨年度は年間パスポート購入者数が過去最多となり、過去10年間で最高の利益を上げた。</li> <li>・アクアスでは、各種イベントの開催や環境学習や海洋自然保護などの学習要素を多く取り入れた特別企画展を行った。</li> <li>・ふるさと森林公園は、12千人の利用者があり、県民の森においても県主催のふれあいイベント等で233名の参加者があった。</li> </ul>
--	---

## ④総合的な評価

評価時点での総合的な評価	判断	その理由
A: 順調に進んでいる B: 概ね順調に進んでいる（見直す点がある） C: あまり順調に進んでいない	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然公園、自然歩道の利用者数は微増にとどまっており、引き続きしまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業を地元と連携して推進する必要がある。</li> <li>・隠岐ユネスコ世界ジオパークは来訪者が微増にとどまっており、引き続き地元と一体となった取組みを行う必要がある。</li> <li>・サヒメルは、入館者数を維持しているが、満喫プロジェクトの中核施設として展示内容等の魅力向上を図る必要がある。</li> <li>・ゴビウスでは、入館者数が増加したが、館内施設の老朽化が進んでおり、必要な修繕を計画的に進めていく必要がある。</li> <li>・アクアスは、本館シロイルカプール改修の影響等もあり、入館者数は減少した。引き続き、魅力あるイベントや効果的なPR活動の実施等を進めていく必要がある。</li> </ul>

## ⑤課題の認識

(1) 平成31年度末の施策目的の達成状況（予測）	判断	その理由（④の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載）
A: 達成できる B: 概ね達成できる C: 達成は困難	B	
(2) 施策の目的達成に向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然公園、自然歩道は、安全に利用できるような保つ必要があるが、倒木処理や施設修繕など県内全域で対応箇所が多く即応が難しい。</li> <li>・しまねの自然公園の魅力在国内外に周知し、来訪者に分かりやすい案内看板や、安心・快適に滞在してもらうための環境整備、楽しんでもらうための体験プログラムの開発など、しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業を地域と一緒に進めていく必要がある。</li> <li>・隠岐ユネスコ世界ジオパークにおいては、国内外の認知度・外国語対応・来島者の満足度などの向上に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・サヒメルでは、施設の老朽化や展示物の陳腐化が進んでおり、展示内容等の魅力向上とインバウンド対応を図るとともに、しまねの自然の楽しみ方を一元的に情報発信する機能の強化が必要である。三瓶小豆原埋没林公園では、三瓶山の成り立ちや埋没林の形成を分かりやすく紹介するガイダンス機能の強化が必要である。</li> <li>・ゴビウスでは、水生生物の飼育・展示という施設の性格上、設備機器の小さな不具合でも運営の可否に直結するため、適切な維持管理を行う必要がある。また、開館から17年を経過しており、新鮮な魅力を発信し続けることが必要である。</li> <li>・アクアスでは、魅力あるイベント等の企画・実施、効果的なPR活動の実施、観光客のニーズや思考の把握、計画的な施設・設備・備品・医療機器の修繕・更新が必要である。</li> <li>・ふるさと森林公園、県民の森は、施設や林道等老朽化が進んでおり、利用者が安全かつ快適に利用できるような整備、維持管理が必要。</li> </ul>

## ⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然公園、自然歩道を安全かつ快適に保つために、優先順位をつけ適切な整備に努めるとともに、市町村との連携を強化する。</li> <li>・しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業は、各種広告媒体を活用した情報発信などの「知ってもらう、興味を持ってもらう対策」、案内看板の整備などの「来てもらうための対策」、体験プログラムの開発などの「楽しんでもらう対策」、遊歩道やトイレ等の整備・維持管理などの「快適に過ごしてもらう対策」を地域と一緒に取組み、国内外からの来訪者の増加を図る。</li> <li>・隠岐ユネスコ世界ジオパークの活用推進においては、HPでの動画配信、多言語対応の音声ガイドシステム、ジオパーク学習会の開催などの事業を実施する。</li> <li>・サヒメルでは、施設や展示内容等の魅力向上と訪日外国人の利用促進も検討し、インバウンド対応としまねの自然の楽しみ方を一元的に発信するため、施設の機能強化を図る。三瓶小豆原埋没林公園においては、来訪者に三瓶山の成り立ちや埋没林の形成を分かりやすく紹介するガイダンス機能の強化を図る。</li> <li>・ゴビウスでは、施設の長期的な維持保全を念頭に、保全・改修費を含めたコスト低減の見地に立って修繕を行うとともに、指定管理者と連携して設備更新等に取り組む。また、安定した入館者数を確保するため、引き続き来館者サービスの向上を目指すほか、隣接の宍道湖グリーンパークと連携した企画・広報を行う。</li> <li>・アクアスでは、魅力ある展示の検討・実施、インバウンド対策や中国5県から瀬戸内海沿岸へのPR活動の展開や近畿エリアでの誘致活動の実施により集客力の向上を図るとともに、長寿命化計画に沿った計画的な施設の修繕・改修、備品や医療機器の計画的な更新などについて引き続き取り組む。</li> <li>・ふるさと森林公園、県民の森は通常の維持管理と計画的な施設整備を行うとともに、突発的な修繕等への迅速な対応に努める。</li> </ul>
---------------------	---

施策評価シート別紙2(事務事業一覧)

施策の名称	施策Ⅲ-4-2自然とのふれあい推進				
-------	-------------------	--	--	--	--

(単位:千円)

	事務事業名	目的(意図)	前年度 事業費	今年度 事業費	所管課名
1	県立しまね海洋館の管理運営	日本海を中心とした水生生物の間近で見ることのできる場を創出し、質の高い自然学習の機会や、遊空間を広く県民等に提供する。	317,953	199,765	しまね暮らし推進課
2	自然公園管理事業	安全で快適な利用の確保を図る。	25,400	69,614	自然環境課
3	中国自然歩道管理事業	安全で快適な利用の確保を図る。	26,164	36,071	自然環境課
4	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。	308,243	329,395	自然環境課
5	花ふれあい公園事業	あらゆる世代が四季を通じて「島根の花」に親しみふれあえる暮らしを実現するため、花に興味をもつ機会を増やすとともに、花のPR及び花きの消費拡大を図る。	82,925	84,313	農産園芸課
6	穴道湖自然館管理運営事務	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通して、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	114,652	111,301	水産課
7	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	平成25年9月に世界認定となった隠岐ジオパークの振興や活用推進を支援するとともに、次期世界再認定(平成33年度)に向けた取組みを推進する。	70,151	49,993	自然環境課
8	森林林業体験活動推進事業	森林とふれあうことを通じて森林に対する理解を促進する。	38,661	41,605	林業課
9	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す。	182,046	297,700	自然環境課
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					